

人工物の科学通論

担当教員	中小路久美代
対象	博士(前期) 課程
科目群	情報アーキテクチャ領域／高度 ICT 領域専門選択科目群

授業概要

本講義では、物理的・論理的なモノやコト、システムといった人工物（人が作り出すものごと）について、それを構成する因子と作り出すプロセスに関わる認知科学や社会科学に関わる原理とモデルを学ぶ。情報システムにより実現される人工物を中心に、人工物とそれに関わる人が作り出す状況を構成する理論や手法の位置づけと効果を理解し、自ら発展させるスキルの獲得を目指す。

キーワード

人工物, デザイン, 認知科学, 表現, コミュニケーション, 創造性, 共創, インタラクション

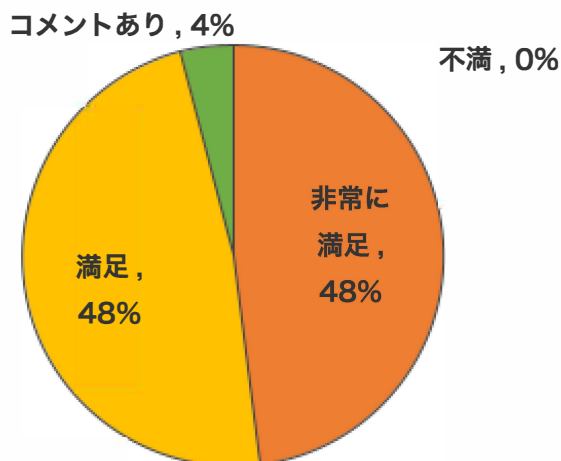
到達目標

1. 人工物とそれに関わる人の認知についての特性の理解
2. 人工物とそれを取り巻く人を含む系を構成する因子やプロセスの理解
3. それらを既存のモデルや原理で説明するボキャブラリーの体得

授業フィードバックアンケート結果

授業満足度

非常に満足	48%
満足	48%
コメントあり	4%
不満	0%



授業フィードバックアンケート結果

来年度以降も続けてほしいこと（抜粋）

- 講義の内容自体は抽象的だと感じていたの、実際に体験できるようなものがあってかなり理解が進み助かりました。
- ワークが個性的で面白かった。
- ワークショップやグループワークなどがあり、面白かったのでそういった体験はつづけてほしいと思いました。
- 具体的な例を挙げて説明がされている点が良かった。
- 演習形式の授業は今後もあった方が良く感じました。聞いて理解するのと実践して得られる理解は異なるものであり、互いに補完し合うものだと感じました（特にこの授業で扱うような概念を理解する必要があるものは）。
- 資料を HOPE で公開している点と講義内で実際にモノに触ったり、やってみたりして考えることが多い点がよいと思いました。
- 授業の中のちょっとした実験や即興演劇などの、実際に動いて感じてみるというものは内容理解にもつながったので、来年もあれば良いと思う。
- 講義中のエクササイズや外部講師による講演、ワークショップ。
- シンプルな試行実験やワークショップなどはとても面白いアクティビティだったので、ぜひ来年以降も続いてほしいと思った（対面でなければできないものだった）。

履修者から後輩へのアドバイス（抜粋）

- 「人工物」とは何なのか考えさせられる講義です。何かをデザインすることを考えるために有益な講義だと思います。
- 研究だけでなく、今後就職したうえでどのようなポイントを意識するべきか知ることができた。また、研究を通してそれらのポイントが今までできていたのかを振り返るきっかけになるととても良い講義だと思います。
- 物事を違った視点で見ることができるようになると思います。
- 自分が当たり前に考えていたことなどをデザインなどの視点から見直すことができてとても面白かったです。また、ワークショップなど実際に手を動かして学ぶことができたのも理解が深まるのでとても面白い講義だと思います。
- 人工物という概念についてと、人工物を作る上で考えておく必要があることをわかりやすく教えてもらえる貴重な授業です。
- レポート課題はほぼ毎回ありますが、非常に有意義な講義だと思います。
- 何回か実践的なアクティビティがあります。素直な心で正直に取り組むと面白いです。

担当教員インタビュー

Q この授業を設計・実施する際のポイントを教えてください。

A この講義では、表現、コミュニケーション、インタラクティブな知覚特性、コレクティブクリエイティビティやソーシャルキャピタルといったトピックを取りあげます。それぞれについて、シンプルなデザイン試行実験を通じた実践、その過程で生じる思いや体験についての省察、それについての既存の理論やモデル、方法論についての解説、といった三つのステージを繰り返しおこなうことで、自らの体験を説明、反芻し、人工物を構成するプロセスを構成する因子を修得できるようにしています。

Q この授業で特に気をつけているところは何ですか？

A 履修者自身に関わることから（研究テーマやサークル活動、研究室でのアクティビティなど）と結び付けて考えることができるような解説をするよう、心がけています。